

ASA KURA

小中高生のための

税友あさくら

甘木朝倉地区税務連絡協議会

第62号
令和4年
12月



小学生の税に関する
絵はがきコンクール

第15回 優秀作品 **最優秀賞**



法人会長賞



東小田小学校 6年
村井 一士 さん

税を考えた
11月
11日(金)~17日(木)

※この作品は令和4年12月の受賞作品です。



甘木税務署長賞



馬田小学校 6年
堀内 萌衣 さん



法人会女性部会長賞



蟬城小学校 6年
佐藤 統虎 さん

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

「増税の意味」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 藤田 海詩

★福岡県久留米県税事務所長賞

「税金の増加で苦しんでいたが

実は違っていた」

福岡県立 朝倉光陽高等学校
一年 久富 七海

「税とこれからの自分のあり方」

福岡県立 朝倉光陽高等学校
一年 山本 浩大

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

「その税金で救われている人がいる」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 和田 亜実

★朝倉市長賞

「私、税金払っています」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 古賀 優奈

★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

「税の意義と役割について考えたこと」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 波多江 颯馬

中学生の優秀作文

★福岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞

「災害復興と税金」

朝倉市立 甘木中学校
三年 池邊 心美

★甘木税務署長賞

「税に支えられている

私たちの暮らし」

筑前町立 三輪中学校
一年 村上 和香

「願

朝倉市立 甘木中学校
三年 後藤 夕輝

★福岡県久留米県税事務所長賞

「私達の税金との将来」

朝倉市立 南陵中学校
三年 草場 実咲

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

「災害で学んだ税金の大切さ」

朝倉市立 比良松中学校
三年 徳永 真央

★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

「税金とともにある幸せ」

朝倉市立 十文字中学校
三年 篠原 礼菜

★朝倉市長賞
「税金の役割」

朝倉市立 甘木中学校
三年 二宮 愛菜

★筑前町長賞

「私の考える世の中と現実」

筑前町立 夜須中学校
三年 田中 叶星

★東峰村長賞

「税金のおかげ」

東峰村立 東峰学園
九年 植木 ひなた



* 高校生の作文

甘木税務署管内の高校より、二二二編の応募があり、その中から六編の作品が入選しました。

* 中学生の作文

甘木税務署管内の中学校より、四六六編の応募があり、その中から九編の作品が入選しました。

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 藤田 海詩

「増税の意味」

十五歳になって、高校生になって、自分が大人に近づいていくのを感じると共に、私は税金について考えることが増えたように思う。

たとえば、中学生までは新学期に配られるのが当たり前だった教科書を親に買って貰って使っていること。税金で購入していることは知っていたが、想像していたよりも大きな金額で、これを全小中学生に配布していることを考えると今更ながらとても有難いことだと感じている。

しかし、私が税金について深く考えるようになった理由はこれだけではない。

姉が十八歳になり、選挙権を得たのだ。誰に投票しようかと悩む姉を見て、あと三年で自分も本格的に政治に参加することを実感すると共に、今まであまり関心を持たなかった政治について考えるようになった。

そして、校門前にたくさん貼られた選挙ポスターや通学路で声を上げる選挙カーを見ていると、「私は五パーセントまで減税する」

「私が当選したら消費税を数パーセント減らすことを約束する」など、減税をアピールしている人が多いように感じた。確かに生活をしていく上でお金の負担が軽くなるのは魅力的かも

しれない。つい数年前消費税が引き上げられたばかりだから、それに不満や苦しさを感じている人達には嬉しいことなのかもしれない。そう考えてもみたが、私はやはり減税という言葉を好意的に受け取ってよいものかと迷っていた。そんなに簡単に減らせるのなら、増やした意味はどこにあるのかと疑問に思ったからだ。

そこで消費税率が十パーセントに引き上げられた理由を調べてみると、財務省のホームページにはこう書かれていた。「社会保障は人生の様々なリスクに對して、社会全体で助け合い、支え合おうとする仕組みです。その費用は保険料でまかなうことが基本ですが、保険料のみでは働く世代に負担が集中してしまうため、税金や借金も充てています。私たちの子や孫の世代に負担を先送りしている状況です。日本の進む高齢化に伴い社会保障の費用は増え続け、税金や借金に頼る分も増えていきます。現在の社会保障制度を次世

代に引き継ぐためには、安定的な財源の確保が必要です。(中略)また、少子高齢化という壁に立ち向かうため、高齢者中心となっていた社会保障制度を拡充し、子育て世代のためにも使えるよう、全世代型に転換していかなければならない、という背景の下消費税率は引き上げられました。」私はこれを見て、生活の中で増えた負担は未来の私たちの生活の負担を軽くするためのものであると知り、今が少し楽になることよりも将来の自分が幸せに生きられる社会をつくることを私の中で大切にしたいと思った。自分も知らない誰かも助けるお金、という意識を持って行動していこうと思う。



★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 久富 七海

「税金の増加で苦しんでいたが実は違っていた」

消費税を八パーセントから十パーセントに引き上げる方針が表明されました。私が小学生の時、その報道が流れてきました。まだ小学生の頭には難しく、記憶は曖昧でした。ですが、「増税」されたことにより買い物をするという事への抵抗心は少しありました。母や地域の方々も、「増税」に悩まされていたことをまだ覚えています。子供ながら、それがどれだけ辛いことなのかも理解していたつもりです。この時から私は、「税金」への不満を抱くようになりました。

しかし、私が中学生になった時に新聞やテレビでダムが造られたという記事を目にしました。そのダムは、「税金」で造られていることを知りませんでした。ただうばわれているだけで

なく私達市民のことを思っていたんだと思うと「税金」への意識が変わりました。他にもどのようなものに利用され活躍しているのか調べてみました。すると「公共事業」という聞いたことない言葉が目にとまりました。思い返してみると、街に張り巡らされている道路の舗装、朝倉市と嘉麻市を結ぶ八丁トンネルの開通など、インフラ整備に大いに関わっていることがわかりました。また、九州北部豪雨をはじめとした、災害が起こった時に活躍された自衛隊の方々、高機動車があるのも、「税金」のおかげであることがわかりました。二〇一九年には、新型コロナウイルスが流行しました。その時も、新型コロナウイルスの対策として「税金」が使われていました。

このようにして「税金」は、社会を支える一翼を担っています。都会とは言い難い、朝倉市をはじめとした地方の小さな都会にも目を向けており、全国各地、公平に支えていってくれています。私はこれらのことを通して「税金はただ取られているもの」という考えだけでした。ですが、「税金」は人の役に立っているという新たに知

れた一面をみて、私達一人一人の幸せのためにしていると思うと、前のような考え方はやめようと思えました。私が社会人になったら、地元の方や全国の方々に恩の気持ちを大切に「納税」という形で感謝を伝えたいなと思いました。そして、社会に貢献できるような立派な大人になりたいです。

★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 山本 浩大

「税とこれからの自分のあり方」

税は自分たち国民が国へ納め、それが様々な使われ方をしています。当たり前ですが知っている使われ方でも、公共に全ての人を使う道路や下水道などや警察、消防、医療機関、教育機関などに多く税金は使われる印象です。日本だけでなく、他の経済国にはこれらのインフラ整備は必須であり、同時に国民に

は義務として納税が絶対です。そして憲法でも決められている国民の三大義務の一つである「納税の義務」は自分たち国民にとって重要なもので、これから将来社会で働いていく事になる自分たち高校生の世代では、これからはもっと身近になっていく義務です。税金を支払うという事は年齢などは関係なく幼い頃から

ら無意識に自分たちが支払っている税金に物品などに付く「消費税」があります。スーパーでお菓子を買った時、商品の本来の値段に上乗せされて数円かかるのが消費税ですが、現在の消費税率は十パーセントとなっています。消費税が増税される理由は、日本の国民の高齢化に関わっています。高齢化に伴い国の社会保障制度の費用は増えていき、その費用の安定化を企てるために消費税は上がっていきます。よく少し前までニュースや新聞などで高齢者の一人あたりの年金の額が少なくなっているという事を聞きました。日本人の平均寿命の上昇により日本国民は、自分たち若い世代に対して、高齢者の人数がより多くなってきました。高齢者の人数を考えると、今よりももっと、労働者の努力が必要になります。一人一人の労働者の負担を減らしていくためにも、全年齢対象の消費税は上がっていかなければいけないと思います。国民の高齢化問題に合わせ

て若い世代の内では、少子化も問題となっています。これから先自分たちの世代が最も働くであろう三十代、四十代になると、今よりもさらに少子高齢化が大きく社会に反映され、もっと苦しくなると思います。ですが、社会保障制度は高齢者だけでなく、自分たちにも大事なものです。そのため自分たちにはこの国の財政を担う覚悟が必要だと思います。自分たちが高齢者や子供たちを支え、社会を良くしていくためには税金を納める事の責任感を持つことが大切です。そのために自分は、将来社会全体を税金で支えていくために、今のうちからしっかりと物事に對しての責任力をつけていきたいと思います。



★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 和田 亜実

「その税金で救われる人がいる」

税金が私達の生活の中でどれだけ重要か知っていますか？税金といっても沢山の種類があります。所得税、消費税、地方消費税などです。これらの税金がどのようなことに使われているかという、医療、年金、介護など、私達の生活を守るために欠かせないことに使われているのです。なので、救急車を呼び、病院に運んでもらうまでが無料なのも、日頃私達が税金を払っているからなのです。

税の中でも私達に一番身近と思われる消費税は年々上がってきています。消費税のせいで買ったはずのものが買えなかった経験がある人は沢山いると思います。だから消費税に良いイメージを持っている人は少ないと思います。私もそうでした。しかし、その10パーセントの税

を払うことで人の命を救うことが出来て、働くことができ、老人達も年金が払われるので、無理に働かずに健康に過ごすことができます。しかし、問題点もあります。今の日本が少子高齢化していることはみなさん知っていると思います。将来、少子高齢化によって高齢者が増え税金を払う人が減少します。なので将来の若者、つまり私達一人が払う税金の量も増えるのです。より一層税へのイメージは悪くなると思います。しかし考えてみてください。税を払う人がいなければ気軽に救急車を呼べず、救えるはずの命が救えませんか。そして、年金ももらえず、私達の未来が暗くなる一方なのです。私達の未来、そしてこれから税を払わないといけないくなる子供達に税の重要

さを伝える為にも、私達は身近な税から払っていかねければならないのです。そして税金は医療、年金以外にも公共サービス、公務員の給料にも使われていきます。私達が税金を払わなければ政治さえまわらないのです。国民一人一人のおかげで政治が成り立っているのです。私達一人一人に大きな役割があるということです。

税の重要性については分かりましたか？これらのことを踏ま

★朝倉市長賞

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 古賀 優奈

「私、税金払っています」

「税ってなんのためにあるのだろう。」

日常生活でよく感じるのは、買い物に行った時に支払う消費税です。買い物に行くと、表示価格よりも多く支払わなくてはいけません。「税金がかからない方がみんなが喜ぶのに。」と思う人は、多いのではないのでしょうか。

えて、みなさんは税に賛成ですか？反対ですか？私は賛成です。税金を払うことは楽しいことでもないし、払ったその一瞬で効果は見えませんが、その後に幸せを届けてくれると思います。私達が当たり前と思っていることが、税金を払わなくなるとその瞬間から当たり前ではなくなるのです。自分達や家族の為、税金を払うことが正解なのか、それとも不正解なのかしかり考えようと思いました。

「税金の例をあげてください。」
と言われたら、多くの人が生活

に身近な消費税をあげると思えます。消費税が導入されたのは、今から約三十年前の一九八九年で、割と最近の出来事だということに驚きます。消費税は初め、三パーセント、それから五パーセント、八パーセントと上

がっていき、現在は十パーセントにまで増税されました。世界的にみると日本の消費税率は、外国に比べると高いとはいえないのです。例えば、ノルウェーは二十五パーセント、イタリヤは二十二パーセントです。平成三十一年の十月に消費税率が十パーセントに引き上げられるというニュースが流れました。その時、「消費税に反対だ。」という言葉でよく耳にしました。家計への負担が大きくなるからこそ、このような意見があることは分かります。だったらなぜ、消費税増税が行われるのでしょうか。増税にどのような用途があるのか気になり、自分なりにその理由を考えてみました。国の税金の使いみちで一番多いのは、「社会保障」です。社会保障とは、国が国民の生活を支えるために作られた制度で年金、医療費、介護、子育てなどのことです。私にとって社会保障はとても身近なことです。幼い時から一人親家庭の私たち家族は、税金に支えられて

生きていたのです。私が思う時は、生活をしていく上で多々あります。例えば、医療費の負担です。病気やけがをして医者にかかる時、健康保険証を見せると治療費を国が一定額負担してくれます。私は医者にかかるたびみんなが払ってくれている税金に助けられているなと実感します。日本は今、急速に高齢化が進んでいて、社会保障のための費用は増え続けています。現在の社会保障制度を次世代に引き継ぐためには、安定的な財源の確保が必要だと考えます。このように考えると、消費税の増税はやむを得ないことだと思います。消費税は誰でも一定に支払うので低所得者の負担が重くなります。しかし、衣食住に困ることなく幸せな暮らしができているのは間違いなく税金が役に立っていると言えます。

このように「税」は、私たちの生活に必要な社会の仕組みです。だから、これからは私が払った税金で他の誰かを幸せにできたらいいなと思います。

★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 波多江 颯馬

「税の意義と役割について考えたこと」

私は最近、衆議院選挙の演説やニュースで消費税減税のような言葉をよく耳にした。消費税という税が減税されるメリットとして消費が拡大し、大きな経済効果が期待できることなどが挙げられている。しかし税が減ったときのデメリットもある。それは税収が減ることだ。コロナ禍により日本の財政が厳しい中、消費税まで減税してしまうと税収が不足し国債依存度が益々高くなってしまおうという問題がある。これを見ると、減税することがかえって悪影響をもたらすことになることがわかる。私は減税について賛成でも反対の立場でもないがこの問題については慎重に解決すべきだと考える。

今まで述べた内容と趣旨が

変わるが、多くの人が税の意義を理解しているか、少なくとも小・中・高生はあまり知らないと思う。税の意義また役割は、社会資本整備や教育、警察などの「公的サービス」の費用を人々から納めて頂くお金、すなわち税を財源とすることである。好景気のときは増税を行ったり不景気のときには減税して、自動的に景気変動を小さくして経済を安定させるという役割も果たしている。その税の使い道というのも、人々の生活を守る社会保障費や道路などの公共事業費などである。税は使い道がよくわからないイメージだが実際には私たちの生活を維持するため様々な部分で活用されている。これをふまえると、税を納めるのが嫌でも、

身の周りで自分の納めた税が人々のために使われているのを知るとプラスに考えることができる。

このように、税についての今の問題や税の意義や使い道を説明してきた。これを見て、最初に説明した消費税減税を考えると、コロナ禍で多くの企業の業績が良くないため、今ま

でどおり税を納めて経済の安定を支えるのも必要であると考える。これは私の意見であつて、減税に賛成の人や反対の人がいても別にいいと思う。大事なのは、何らかの対応がとられた時、何のためであるか理解し、経済のために人々が取り組むことだと思う。



中学生の優秀作文

★福岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞

朝倉市立 甘木中学校

三年 池邊 心美

「災害復興と税金」

二〇一七年七月、九州の福岡県と大分県で災害をもたらす九州北部豪雨があった。

当時私は、小学四年生だった。激しい雷雨の音が校舎中に響き渡る中、私は授業を受けていたが、その途中で放送が入り保護者に迎えに来てもらって下校することになった。災害地区で働いていた母は、その夜帰ってこられずとても心配した。

次の日の朝、昨日の豪雨を忘れさせるような眩しい光が差していた。しかし、テレビをつけてるとニュースでは、土砂崩れや洪水によって見えなくなった道路、埋まっている自動車など見慣れた街が変わりはてた光景になって映し出されていた。そし

て夕方、母が帰宅し、不安が和らいだ。

私はそれから三年間、災害で被災した地域の状況や土について調べていく中で、復興の様子も知ることができた。田んぼは、土砂で埋もれ、水が干上がった後はパズルのようにひび割れていた。土砂を撤去したり、土を改良したりしながら再び農地として使えるようになるまで、沢山の時間と費用を要していることが分かった。その費用には復興支援として税金から出ているものがあつたことを知った。

道路が崩れ落ちているところでは、数日で仮設の道路ができ、復興工事用の道としても使われていた。今では、朝倉市のシン

ボル、三連水車も元気に回り、水を田んぼへ送っている。

私達が災害の前のように生活する為の復興作業の他に、再びこのような事態が起こらないように河川を広げたり、橋を大きく作り直したりする復興作業にも税金が使われている。

また、あの日帰る事ができなかった母達被害者を助けられたのは、税金で活動されている、消防士や警察官、自衛隊の方だった。災害の復興作業は税金によって行われ、生み出され

るものがあつたことを知る事ができた。

私はこの災害を通して、税金が街を救い、住民の生活を守り、笑顔を作っていることを学ぶことができた。

もし、税金の意味が分からないうという人がいたら、私は自分が経験したことを話しながら税金の大切さを伝えていきたい。そして、大人になったら、きちんと税金を納め、すべての人が安心して生活できる世の中作りをしていきたいと思う。

★甘木税務署長賞

筑前町立 三輪中学校

一年 村上 和香

「税に支えられている私たちの暮らし」

「税金」とは何かを考えた時、中学生である私は消費税を思い浮かべます。

普段買い物をした時にもらうレシートには消費税が記載されています。以前は、子どもとはあまり関係のないよ

うに思っていました。私も時々買い物をするので、急に身近に感じました。

母に税金について話をしたところ、給料明細を見せてくれました。所得税や住民税が書き記されてありました。

所得税は給料をもらった人が払う税金で、住民税は筑前町に住んでいる人が納める税金だと教えてくれました。自分が働いて支給された給料に税金が課され、住んでいる町に税金を払ったり：。父も母もたくさん税を払っているんだなあと感心しました。

国民一人ひとりから集められた税金が、地方単位、国単位では莫大な金額になります。

これらは、警察・消防、医療・介護などの公共サービス、道路や下水道などの整備、教育や研究の援助など、私たちの暮らしを支え、安全を維持するための様々な分野で活用されています。

また、日常生活において私たちの使っている教科書、学校で使用している水道・電気料金、授業料にもこれらの税金が役立てられており、教育を受けられるよう環境を整え、そうした教育に関わる費用の源泉となり、国民の権利を支えてくれているのです。

税金の流れをイメージすると、「経済の血液」という言葉はぴたりと、自分の手元から出て行ったお金が何らかの形で自分の元に戻ってきているんだなあと実感できました。

今まで当たり前のように使っていたものも大勢の人が一生懸命働いて納めてくれた税金が使われていることを知り、「大切にしよう」と強く思うようになりました。

「感謝」の気持ちを忘れないようにしたいです。そして、大人になったら社会の一員として、税金をきちんと納め、みんなが幸せに暮らせる社会を築けるようになりたいと思います。



★甘木税務署長賞

朝倉市立 甘木中学校
三年 後藤 夕輝

「願い」

「あの時は、畑仕事しよるときに飛行機がたくさん飛んできて爆弾をもすごい数落としてきた。子ども二人を連れ逃げようとしたとき、家の中にもう一人子どもがいたことに気づいた。家の子どもの助けようと爆撃の中走っていると、兵隊さんから「お前は死にたいのか」と怒鳴られた。しかし、それを無視して家の中へ飛び込み子どもを無事、助けることができた。今、思いかえすと恐ろしいことをしていた。」八月になるたびに四年前に他界した曾祖母の話

を思い出します。今はビール工場が建っている場所には、戦時中大刀洗飛行場という大きな飛行場があり、そこで訓練を受けたたくさんの兵隊さんたちが特攻に出て命を落としたそうです。飛行場があったため、私の

住むこの町は何時も爆撃や空襲を受けました。これはその時の話です。今の日本は平和で私も毎日学校に行くことができ、勉強や部活動に励んでいます。だけど、世界に目を向けるといまだに戦争が絶えません。ロシアがウクライナに突然侵攻してから半年以上がたちました。病院や学校を攻撃し、子どもを含む大勢の人が亡くなったそうです。とても悲しいことです。どんな理由があったにしても、一日も早く戦争を終わらせて欲しいと思います。

ウクライナ問題のニュースがテレビで流れない日はありません。その中でたくさんの戦車が進行するシーンや連続してミサイルが発射されるシーンを見ました。いろいろ調べてみると、戦車やミサイルなど、武器を作

るそのお金には税金が使われていることを知りました。ミサイルを作って一回発射するのにそうとうな金額がかかります。相手の国を攻撃し物を破壊することには税金が使われていることは複雑な思いです。税金は平和のために使われるべきだと思いません。そのためにも、絶対に戦争をしてはいけなくと強く思いました。ロシアは日本の隣国でもあります。もう一つの隣国の中国も日本の領海や台湾をおびやかしています。北朝鮮はミサイルを発射することをやめません。そのため、日本でも世界でも自分の国を守るために投入す

る税金の金額が毎年増えているそうです。これ以上戦争のために税金を使わなくてもいいように平和で戦争のない安心して暮らせる世界であって欲しいと思います。そのためにも、私たちは、私たちが納めた税金を現在の社会をよりよくするために使える社会になるように大人たちのバトンをとり立派なランナーになり、レーンを走っていかなければならぬと感じました。この世界から戦争がなくなるとは限りません。だからこそ、戦争のない安心して暮らせる世界へ税を善用していきたいと思えました。

★福岡県久留米県税事務所長賞

朝倉市立 南陵中学校
三年 草場 実咲

「私達の税金との将来」

みなさんは税金についてどのようなイメージを持っていますか。必ず払わないといけないもの、少し難しいもの。消費税や、所

得税等様々なものにかかる税金を国や自治体に払っています。もし税金がなかったら、全ての子供が安心して学校に通うことができな

くなったり、高齢者や体の不自由な方などのための施設が設置できなくなったりして、不便な世の中になってしまいます。学校や医療施設等、今、私達がよりよい生活を送ることができるのは、税金があつてこそその生活です。

私の曾祖母は高齢者施設に入所しています。高齢者施設でも税金が使われていると知りました。さらに、高齢者と税金を納めている若者との関係を知りたくなったので、本やパンフレットで調べることにしました。

国や自治体が収入を得て支出する経済活動を財政といいます。財政の中で収入のことを「歳入」、支出のことを「歳出」といい、私は「歳出」について調べました。

「歳出」で最も多いのは、生活や医療、年金に使われる社会保障費というものです。日本では数ある問題の一つに「少子高齢化」があります。世界でも高齢人口の総人口に占める割合が高い国となっています。またそれにより社会保障費が年々上昇していき、最も高いものが年金

とされています。

少子高齢化により、一人の高齢者を支える若者が減少していきます、若者の負担が大きくなっていきます。それと同時に社会保障を充実させていくことの二つの両立が課題となっています。しかし、そんな中でも、自分達の未来も考えながら税金を納めて、年代層幅広く住みやすい世の中を作っていくことが何よりも大切だと思えました。私は、正直今まで

「どうして税金というものを払わないといけないのだろう。」と疑問に思っていました。しかし、この作文を書くことで、税金についての様々なことを知り、よりよい未来を築いていくためにも税金がどれほど重要なものかを理解することができました。また、国民一人ひとりが税についての関心をもっと高めることが必要だと感じました。数年後は、私も仕事をし、様々な税金を納めることになるので、日本にある課題を真摯に受け止め、税金の大切さを後世にも伝え続けていきたいです。

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

朝倉市立 比良松中学校
三年 徳永 真央

「災害で学んだ税金の大切さ」

「税金はなぜ払わなくてはいけないの？」

「払わなくてもいいんじゃないのの？」と私も思っていた。みなさんも一度はそう思ったことがあるのではないだろうか。

二〇一八年七月五日。災害が私たちを襲った。それは五年前の私が小学四年生の頃だった。外を見るたびにどんどん水かさが増していく。テレビをつければ大雨情報だけがあっついて汚れた茶色の川はあふれ、物が散らばっている。家が壊れたり、道路が崩れているのをニュースで目にした。それはあまりにも悲惨な状態だった。朝倉市も私が見ていた、いつもの姿とはちがっていた。

こんなとき、税金がなかったら…？ 道路は毎日人や車などが行き来したり、風雨にさら

されることで傷んでいく。税金がない世界では、私たちのために道路や橋を修理するお金がない。すると、道路や橋が壊れたまま放置されてしまったり、修理した人から通行料の支払いを求められたりするかもしれないということになる。他にも学校で見たビデオでは救急車を呼ぶにお金がかかるためケガをしても救急車を呼べなかったり、家庭や会社などから出るゴミの回収と処理には多くのお金がかかるため外のあちこちにゴミが捨てられてまちがゴミだらけになってしまったりしていた。

つまり、税金は道路の補修や救急車を呼ぶお金、まちをきれいにするためのお金に使われていることが分かる。そして、私たちがタダでもらっている教科書も税金でまかなわれている。

学校にも税金は使われているのだ。他にどんなことに使われているのか調べてみた。すると、税金は日本だけでなく食料不足で困っている人たちが多くいる国を助けるため、お金を貸してあげる事もしていることを初めて知った。また、病院で使う薬や注射器なども税金で送られていることが分かった。

このように、税金は私たちの

身近なものにもたくさん使われているなと感じた。私も災害で不安だったときにすぐに救急隊の方々が来てくださったって本当に税金のおかげだなと思った。そして、私たちの暮らしは税金で支えられていることを実感した。だから、税金は払わなければならないし、大切にすべきだと思う。



★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

朝倉市立 十文字中学校

三年 篠原 礼菜

「税金とともにある幸せ」

ある時、インターネットで「幸せな国ランキング」というものを見た。そのうちスウェーデンやフィンランド、デンマークなどの北欧の国五ヶ国がトップ十入りしていた。何故だろうと疑問に思い、調べてみるとそこには税金が深く関係しているようだった。

ここでは、スウェーデンの税金制度を例に見ていこう。まず、スウェーデンでは三十一年前から消費税が二十五パーセントとなっており、日本の十パーセントと比べるとその差は二・五倍と、とても高いことが分かる。また、スウェーデンの所得税は、地方自治体に対して払う税と、国に対して払う所得税があるが、そのうちの地方自治体に払う税は、三十から

三十五パーセントだそう。こちらも消費税と同様にとっても高いと言える。スウェーデン国民は、こんなにも多額の税金を払わないといけないのに、どうして幸福度が高いのだろう。

その理由は、税金によって賄われる社会福祉制度にある。一つ目は、学費が無料になることである。幼稚園から大学まで全て無償化されていて、何歳からでも再教育のチャンスがある。二つ目は、求職者、失業者支援についてである。失業者は、前職給与の八十パーセントが一定期間支給されて、求職者は面談、カウンセリングによる就職サポートなどが受けられる。三つ目は医療費についてである。十八歳未満と八十五歳以上は原則無料になっており、ま

た、妊娠検診や出産費用も無料となっている。四つ目は、手厚い子育て支援である。子どもが八歳になるまで両親は育児休暇をとることができ、勤務時の給与の八十パーセントが支払われる制度がある。この制度は、少子化対策にも繋がっているそう。

これら四つの他、スウェーデンでは税金による様々な社会福祉制度が乳児からお年寄りまで行き渡っている。だから

スウェーデン国民は高い税金を払うことに不満がなく、国への信頼度も高いのだろう。私は以前、どうして税金なんてあるんだろうと書いていた。しかし、今回こうして書いて考えたことによって、税金が人々の暮らしを支えているのだと改めて実感した。そのことにしっかりと感謝し、大人になったとき、正しく税金を払える人になりたいと思う。



★朝倉市長賞

朝倉市立 甘木中学校
三年 二宮 愛菜

「税金の役割」

皆さんは税金についてどう考えますか。私は、税金は何故あるのだろうか、とずっと疑問を抱いていました。税金なんてあっても私たちが損をするだけだし、なくなってしまう方がいいのに、とさえ考えていました。でも、今はそう思いません。税金の意味を理解したからです。

私は中学3年生になって、側弯症という病気だと診断されました。その治療のためにコルセットが必要だったのですが、そのコルセットが高額で、私にとってもおどろききました。でも、私たちがそのお金を支払う必要はありませんでした。税金で、全額補助されたのです。私は、ますますおどろきました。税金がこのようにして使われることを、私は初めて知りました。私はこの税について調べて

みました。その税は、社会保障関係費といって、医療の他にも生活や年金などのために使われるそうです。社会保障関係費は、国の歳出予算の中で、33・7%と最も多くの割合を占めており、その費用は、何と36兆2、735億円です。

この費用には様々な使い道があります。例えば、障害者への給付、高齢者向けの社会保障制度の充実、児童への手当などです。障害者への給付では、訪問介護や施設介護のサービスを提供したり、自立訓練を行ったりしています。それだけではなく、障害者の雇用の実現にも力を入れていくそうです。高齢者に対して、同じようなサービスが提供されています。児童や、その保護者にも支援が行われています。保育所の保育料を

軽減したり、公園や児童館の建設をしたり、公立高校の授業料を無償化したりなど、サービスはとても充実しています。

私は、税金は日本をとっても豊かにしているな、と思います。私は今まで、税金は何のためにあるのだろうか、とずっといました。しかし、調べていくうちに、税金は、人と人が支え

★筑前町長賞

筑前町立 夜須中学校
三年 田中 叶星

「私の考える世の中と現実」

「どうして税金が必要なんだろう。」

母に頼まれ支払いをしている時に私はふとそう思った。食料品は八%、その他の商品は十%と税抜よりもお金がかかってしまう。どれだけ税金がなければ生活が楽になるのか考えながら支払いを済ませ、家へと帰宅した。

どうしても税金の役割が気

あって生きる社会をつくるためにあるのだと感じました。私はまだ中学生ですが、消費税などの税金を払っています。私が納めた税金が誰かの役に立っているかもしれないと思うと、幸せな気持ちになります。私は、人と人をつなぐ税金は素晴らしいと思います。

になり、母に聞いてみるも、「所得税」や「固定資産税」など難しい言葉ばかりを口に出し、そんなにも多くの種類があるのなら、余計に税金は必要ないと考えてしまった。

そこで出会ったのが「租税教室」だった。実際に税務署から税理士さんが来てくれ、様々なことについて詳しい説明を受けた。競馬や犯罪には税金が

かかり、宝くじには税金がかからないことを教わり、やはり税金は必要ない：そう考えたが、ある一本のDVDを見ると、私の考えは変わった。

「税金がない世の中は恐ろしい。」

確かに税金がなければ食料代や生活費にまわしたり、自分の好きな物を買うことだってできると考えられるが、幸せを感じられるのはほんの一部にすぎない。何か大切な物を盗まれた時に警察に助けを求めることができない、学費が高いため学校に通うことができなくなり、子どもから高齢者までが働きに出ないと生活が困難になってしまふなど、苦しい思いをしなくてはいけなくなってしまうからだ。その他にも道路や町の整備ができず、居心地の悪い場所、世の中になってしまふため、ますます苦しい思いをしなくてはいけなくなってしまう。そうならないために税金はあるのだと知ることができ、「税金は私たちに必要。」だと考



これからも世の中で生活していくうえで、たくさん税金を支払う場面が出てくると思うが、きちんと支払い、誰かの生活を支え、支えられながら生活していきたいと思う。

「人間は一人で生きていけない。」

世の中の誰かの考えが少しでも変わり、今よりもっと素晴らしい世の中になっていけばいいなと私は思う。

★東峰村長賞

東峰村立 東峰学園
九年 植木 ひなた

「税金のおかげ」

七月に租税教室が行われた。そこでは自分達の暮らしと税金がどのような関わっているのか動画を見ながら学ぶことができた。

動画には税金のない社会がどのようなものが映し出されていた。道路が整備されていなかったり、犯罪が起きても警察官が呼べなかったりで住みにくい街になっていた。そんな社会は嫌だと感じたし、今は税金のおかげで幸せに暮らせているのでそれを続けていきたいと思う。租税教室では税金が私たちの暮らしの中でどのような役割をはたしているのかをくわしく学ぶ時間となった。一般会計歳出でトップの社会保障は少子高齢化が進み、費用が増えていく問題がある。二〇〇〇年は三・六人、二〇二五年には一・八人が二〇五〇年には一・三人で高

齢者を支えなければならぬ。老後の安定した生活や健康で文化的な社会を実現するためには税金が必要となってくる。その費用をどう負担すべきかをしっかりと考えていくべきだと思う。租税教室で一番心に残ったことは小学生と中学生の一人当たりの年間教育費負担額。私たち中学生は百五万二千円でもとも高額なのでびっくりした。税金のおかげで私たちの生活は成り立っていると言ってもいいくらい、生活に大きく関わっていることが分かる。なぜを引いたり、けがをしたりして病院で手当てをしてもらうときにかかった金額の一部に税金が使われていたり、顔を洗ったり、歯をみがいたり、お風呂やトイレなど毎日水が使えるのも税金によって水道が整備されているからであ

る。私たちに身近な使い道だと、教科書や教室にあるパソコン、実験器具や体育用具などに税金が使われている。これ以外にもインターネットで調べるとたくさんさんの使い道があった。いろんな方に税金を払う意味を知ってほしいと思う。最近でいうと消費税が八パーセントから十パーセントへ引き上げられ、社会に影響をおよぼしただろう。これ以上消費税が上がってほしくないと願う人がいるのではないだろうか。

「税金なんて必要ない。」と思う人はたくさんいるだろう。しかし、税金は私たちの生活を支える大事なもので、今普通に暮らしていているのは税金のおかげなのである。学校で学ぶことができる、家庭で出たゴミを処理してもらえるのは、当たり前のことではない。全て税金のおかげなのだ。税金のありがたみをたくさんの人に感じてほしい。そして、これからも税金を払い続けてほしい、払い続けたいと思う人が増えてほしいと思う。

税の標語

全国間税会総連合会 入選

納税で 幸せメーカー 満たんに

比良松中学校 二年 與世田 音瑠

困る人 いない世界を 税金で

十文字中学校 一年 篠原 万里愛

税金は 未来へたくす 夢のバトン

三輪中学校 一年 坂田 楓夏

一円の 大切さ知る 消費税

杷木中学校 三年 合原 莉愛

消費税 僕が払えば あなたへと

夜須中学校 一年 中西 拓誠

甘木朝倉間税会が募集した「税の標語」です
本年度は管内中学校9校から2,094点の応募がありました。

租税教育活動を やっています

甘木朝倉地区税務連絡協議会では、構成団体が協力し、税知識の向上及び納税意識の高揚を目的にさまざまな活動をおこなっております。



甘木朝倉地区
税務連絡協議会とは？

★構成団体は？

- ・ 公益社団法人甘木朝倉法人会
- ・ 甘木税務署管内
青色申告会連合会
- ・ 甘木税務署管内
納税貯蓄組合連合会
- ・ 朝倉地区
税務相談所運営協議会
- ・ 甘木朝倉間税会
- ・ 甘木税務署管内酒類業懇話会
- ・ 九州北部税理士会・甘木支部

★何をしようとする団体なのか？

- ・ 一般の方々の税知識や納税道義の向上を目的とした様々な活動を行っています。
- ・ 中学生や高校生の税に関する優秀な作文を表彰する等して、租税教育の支援をおこなっています。